

第3回鎌倉市児童福祉審議会会議録

平成12年11月3日(土) 13時00分～15時30分

委員長 それでは定刻より少し早いのですけれども、第3回の鎌倉市児童福祉審議会を始めさせていただきます。

今日で3回目で、ここ2回目、3回目恐らく次回も少しかかるかと思うのですが、鎌倉の子供たちのことと、それから子育ての様子というのを考えていく予定であります。年度内6回という予定でありますので、来年1月から3月の間の2回ぐらいの中で、今度は子育てあるいは子供のニーズに実際に今どういう対応をしているのかというようなところまで含めてやっていきたいと、とりあえずその現状把握からということでその継続の部分が今日になります。また、忌憚のない意見を皆様方にいただきたいと思っております。

それでは、事務局の方に出席委員等の確認をしていただきます。

事務局 委員さんにつきましては、全員出席をいただいております。また、3人の幹事につきましては、所用のため欠席という届け出がありましたのでご報告いたします。以上です。

委員長 それでは議題に入らせていただきますが、その前に1件、この間委員のある方から事務局の方にこういうお知らせがあったということで、委員長の方に連絡がありました。そのことは前回傍聴をなさりたい方で少し遅れて見えた方がいらっちゃったそうです。事務局側としては、審議の出入りで差しさわりになってはと気を使っていただいて、確か9時半だったのですか、それ以降の入場をお認めしなかったというようなことがあるようですけれども、こういう会場ですし、何も大学の学生と違ってわいわい騒ぎながら出入りするということでもありませんので、私も人並みに何回か遅刻することもございますので、静粛を保って出入りをさせていただくということで傍聴の方のトイレ等もあるでしょうから、出入りについてはお認めしたいと思っております。よろしいですか。(全員異議なし) ありがとうございます。

それではもう1件、これも3回目の恒例になりますけれども、「傍聴者の皆様へ」というご案内を傍聴者の方にお配りしております。ここで改めて全部読み上げませんが、私ども委員の方が自由闊達な意見を交換するというところで、傍聴者の皆さんには会議中にご意見いただくことはできないというお約束でこの審議会を進めさせていただいております。ただ、事務局あてにお電話等でご提案いただければ、その次か次ぐらいになると思うのですけれども、審議会での検討課題に反映させていただきたいというふうに思っております。

それでは、議題に入らせていただきまして、今日は前回の宿題とそれからさ

らに追加資料の説明、これに基づいた審議ということになりますが、その前に前回審議会の会議録にも少しお目通しをいただきながら、審議を進めていきたいと思います。前回の宿題の1つに、やはり子供たちの状況ということで、専門家の方にぜひ話を伺いたいというお話が委員の方から出ておりました。議事録の中にも保健婦という具体的な候補が上がっておりました。この点について、少し事務局の方から次回保健婦・栄養士という立場から子供の現状報告を行っていただくということで、設定させていただきましたので、そのことについて事務局の方からお願いいたします。

事務局 お手元に次回審議会での保健婦・栄養士の現状説明についてというのが1枚あります。きっちりと固めたものではありませんが、前回の審議の中で現場の声を聞きたいというお話がありましたので、市の保健婦、保育園を担当しています栄養士からテーマは仮なのですが、子供の発達と生活というようなことで話を、仕事の間、現場の状況を中心に短い時間になるかと思いますが話をいたしまして、皆さんのご意見等も少しいただければと思っています。内容的には子供の健康診断ですとか、親子との面接などやっていますので、その中からいろいろなことが伺えるかと思っています。それから健康診断に来ないお子さん、親子もいるというようなことを聞いています。その辺のことも若干掘っているものがあるようですので、話ができればと思います。それから、やはりご家族と地域とのかかわり、核家族化というようなことも言われていますので、そのようなことを含めて話ができるかと思っています。それから、子供を取り巻く食環境、食のお話も前回出ていましたので、食環境ということでその話題も含めたいと思います。それから、健康づくりのための生活、子供の食事についてということで、事例なども含め説明をし、質疑を入れましておおむね1時間ぐらいの中でできればと思っています。以上です。

委員長 ありがとうございます。次回12月16日(土)になるかと思うのですが、時間外ですけれどもお話を伺いたいと思います。

委員 すみませんこれは何か具体的なことで出ている内容が6項目ありますけれども、その具体的な資料とか、そういうものも一緒に出していただけるのでしょうか。

事務局 持っている資料として、あるものについては出していただくことでお願いをしています。

委員 そうですか。ありがとうございます。委員長、私の方もこれから5年後、10年後に母親になる方々がどういう食生活、今ちょうど私は高校の教師をしていますので、食生活の実態がどんなものかというのが、一般的なことがわかる資料を私の方も用意したいと思います。

委員長 ぜひお願いいたします。

委員 次回、12月のいつですか。

委員長 16日ですね。また最後に確認をさせていただく次々回は年を越すことになりませんが決めさせていただきます。それでは議事録のほかに今日は資料が何点か用意されておりますので、事務局の方で少し確認をお願いいたします。

事務局 資料の確認をいたします。事前にお配りしました資料、資料3-1、3-2、3-3、それから、前回第2回の会議録がお配りしている資料です。それから、今日お手元の方に資料3-4、先日来お話をしていました子育てニーズ調査の報告書を用意しています。

また、参考までに保育園、幼稚園の位置図を委員さん方には用意しています。それから大変申しわけないのですが、事前にお渡しした資料で1枚、資料3-1の21ページの数字が若干間違っておりまして、後ほど説明いたしますので差し替えをお願いします。21ページです。

以上です。

委員長 お手元にそれぞれ間違っているものはないでしょうか。ご確認してください。それでは、審議会の会議録はもう事前にお手元に渡って、私もずっと自分のところを中心に読ませていただきまして、大変な議論を時間をかけてやったものだなと思いました。かなりなボリュームになりますが、皆さん方の方でお気づきの訂正点はございますか。よろしければ、何かお気づきになりましたらまたこの審議会の閉会后に事務局の方にお教えいただくことにしまして、それではですね、議事の方にもう一回戻りましょう。

前回会議録の確認は一応終えたということとしていただいて、先ほど前回のお約束どおり第1回目の議事録につきましては訂正点、直していただいたのを確認して私の方で署名をさせていただきました。

それでは議題の2番で提出資料の説明というところで、主として事前配付、それから今日追加、あるいは修正配付されたものを中心に事務局の方からご説明をしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局 それでは、資料の説明をいたします。

まず、資料の3-1をお願いします。資料の3-1については、前回会議の中で委員さんから求められた内容のもの、前回説明をいたしました資料として提出していなかったもの等をあわせて資料として提出しています。資料目次にありますが、市内の人口動態、人口異動の状況、就労状況、地域別児童数、幼稚園・保育園の関係、乳幼児・幼稚園・保育園の関係と状況、未就園児の推計を最後につけています。

では目次に沿いまして、順番に説明いたします。前回人口増加というか鎌倉市内の子供も含めた人の動きについての質問がありました。地域別に実際に

どういう動きになっているのかというご質問がありましたので、まず1ページに資料を出しています。ここでは平成7年から11年までの市内の人口の動きを出していますが、平成7年から全体としては人口減という傾向が出ていました。平成10年の全体としては人口減ながら社会増となっており、平成11年には、合計ですが486人の増になっています。これを前回会議の中で200人ぐらいと説明したかと思いますが訂正いたします。486人の増加です。平成11年の玉縄地域の社会増が722人で、かなり高くなっています。それから鎌倉地域の社会増が291人、腰越地域の208人というようなことで社会増がかなり高い状況になっています。下のグラフは、プラスマイナスの増減をグラフにしてみたものですが、一番右が平成11年なんですけれどもやはり玉縄地域が断然増えています。

その傾向ですが、次の2ページをお願いします。人口動態の傾向、これは私どもの推計ですけれども、平成9年までは自然減、社会減ともにありましたけれども、9年度からゆるやかになりまして、10年度には社会増になりまして、平成11年度には社会増がさらに増えてきています。原因というか主な要因としては玉縄地域については、中高層の住宅、いわゆるマンションがかなり増えている傾向にあるということが言えます。それから、鎌倉地域については、やはり小規模な開発がかなり出ているというように聞いています。その下に参考までに地域別の出生数、子供の生まれている数を平成8年から載せてありますが、傾向的には大体それほど大きな子供の出生数の差はないと言えるのかなと思っています。

それから3ページに移りますが、年齢別人口異動の状況、これは平成11年中での異動です。年齢別に5歳で区分していますが、社会増減で増えているところは0～4歳で237人です。それから5歳～9歳が187人、それから35歳～39歳が232人、40歳～44歳が88人、45歳～49歳が79人というように増えています。これについては、マンション等の増加で転入されてくる方がかなりいて、それに伴って一緒にお子さんが転入しているということが傾向としてあるのではないかなと解釈しています。

4ページをお願いします。以前から市内の就労の状況、働いているお母さん、お父さん方の状況について、資料を委員さんから求められていますが、実は国勢調査等のデータ等も事務局で確認しているのですが、共働きですね、共働き世帯の数等について、鎌倉市だけでは出ていませんで、状況として男女別の就業数の割合等を提出しました。これは国勢調査の数字ですので、昭和60年、平成2年、平成7年また今年調査をやっていきますので、来年にはまた出てくるかと思いますが、男女別の就業者、15歳以上で働いている方なので、お父さん、お母さんの数字ではないのですけれども、この数字を出し

ています。全体の総数、各年の総数に占める女性の働いている割合を見ますと、昭和60年が32.3%、それから平成2年が34.6%、平成7年が36.5%ということで大体2%ぐらいの割合で女性の働いている方が増えているという傾向が出ています。

5ページについては、平成7年の数字を地域別に表しています。傾向的には多いのが鎌倉と大船地域が総数としてはやはり多いという結果になります。

6ページをお願いします。6ページについても、15歳以上の働いている方の年齢別の数字、それからそのグラフでして、一度目のピークが25歳から29歳、それから二度目のピークが45歳から49歳というような形で、いわゆるM型です。一旦結婚退職されて出産をされて、それからまた働き出すというような全国的な傾向と同じような傾向が出ています。

7ページをお願いします。ここからは鎌倉市内の児童数の推移を地域別に表しています。平成7年から平成12年までの各地域別の子供の数を上の表で表現しています。それから、一番右の地区別割合というのは、平成12年の各地域の0歳から5歳のお子さんの割合です。鎌倉地域、深沢地域、大船地域が大体22.3%から22.8%ということで同じような割合になってまして、玉縄、腰越が若干子供の数としては少ないという傾向です。ただ、下のグラフを見ていただきますと、これも前回少しお話をいたしましたのですが、玉縄地域と鎌倉地域の数がここ2年ほど伸びているという傾向があります。それから、8ページ、9ページ、10、11、12もグラフですが、これは地域別、年齢別のお子さんの数を示しています。地域別に大体傾向としては今言いましたように鎌倉、玉縄の地域が伸びているという傾向があります。

10ページからはそれを各年度の年齢別のグラフとしまして、統計を出しています。傾向的には同じなんですが、深沢地域が12年度に少し下がっているというのがほかの地域と違うのかなと思われます。

13ページをお願いします。13ページについては、前回は資料として子供の5歳までのお子さんの数、それから幼稚園児の数、保育園に通っているお子さんの数ということでお出したのですが、計数的な数字しか捉えていませんで、今回もう一度割合等を表現して追加で出しました。子供の数については前回と同じでするので省略します。幼稚園児のところを見ますと、幼稚園児の数、これは下に書いています学校基本調査を基にしていますので、鎌倉以内の幼稚園のお子さんということで、この中に市外のお子さんは入っていますが、後でまた幼稚園の状況のところでも市内の子供の数だけは説明いたしますが、今は学校基本調査をベースにして数字を出しています。幼稚園児数の真中にきている数字については、3歳から5歳のお子さんのうち幼稚園児のお子さんがどのくらいいるかという割合を出しています。前回 委員さ

んが計算していただいたのと同じになりますが、昭和60年の61.1%と比べて平成12年には73.5%で、3歳から5歳のお子さんに対しての割合は、かなり高い割合で幼稚園に行かれているということが現状です。

それから保育園の方見ていただきたいと思うのですが、保育園につきましては、3歳未満児0、1、2歳と3歳から5歳の数字で分けてありますので、わかりにくいこともあるのかと思いますけれども、保育園児の左から2番目の欄を見ていただきますと、これは3歳未満児の子供の数に対してどのくらい保育園に入所しているかという割合を示しています。

昭和60年の6.6%から平成12年13.6%、かなり増えていると思います。それから、3歳から5歳が4番目にありまして、5番目は3歳から5歳のうち保育園に通っているお子さんの数で、昭和60年の14.6%から平成12年には21.5%ということで、これもかなりの割合で伸びているという傾向が出ています。下にあるのがそれに対するグラフです。

次に14ページ、15ページについては、今言いました子供の数等をグラフにしたもので、傾向的には人口の増減とほぼ一致して幼稚園児の数、保育園児の数が同じような傾向を示しているかなと思います。

16ページをお願いします。16ページ、17ページについては、幼稚園の状況です。まず16ページの上の表ですが、これは平成4年から平成12年までの幼稚園のお子さんの数を年齢別に出しているものです。これも学校基本調査の数字ですので、12年度の総計は2,633人という数字が出ています。下はそれをグラフにしたもので3歳、4歳、5歳別にグラフにしています。

それから、17ページの上をご覧くださいと思うのですが、ここで一カ所訂正をさせていただきます。表のですね一番上、地域の隣が「保育園数」でなく、「幼稚園数」ですので訂正をお願いしたいと思います。一番上の地域の隣が保育園数というのが委員さんにお渡ししている段階では保育園数となっていましたので訂正をお願いします。ここの数字を見ますと、3歳、4歳、5歳、各々480人、865人、977人、合計は2,322人になっています。これは16ページの数字の2,633人と違いますが、鎌倉市内のお子さんで鎌倉市内の幼稚園に行かれている方と市外の幼稚園に行かれている方をあわせた数字です。ですから16ページの数字には市外のお子さんの数字も入っていますので違いがあります。平成12年度では鎌倉市の3歳から5歳のお子さんの中で2,322人が幼稚園に行っているというふうに把握できるのではないかと思います。

その下に括弧書きで書いてありますが、市外からどのくらいのお子さんが市内の幼稚園に通っているのかというお話もありましたので、今ここにある数

字だけでちょっと捉えてみますと、市内の幼稚園のお子さんから市内の幼稚園に通っているお子さんを引きて、それから市外に出ているお子さんを引きますと、455人、これはまた委員の方でご確認、もししていただければと思うのですが、単純に数字の引き算になりますので、こんなに多く市外から来ているのかなという、私どもでも把握できなかったのですが、一応考え方としてはこれでいいのかなと思っています。また、幼稚園を地域別に出していますが、これは幼稚園の所在地別の割合ですので、鎌倉地域のお子さんがこの割合にいるということではありません。

18ページをお願いします。18ページから20ページについては、保育園の状況です。前回委員さんからもお話がありまして、公立保育園、私立保育園それから認可外の保育園別の状況は出せませんかということでしたので、公、私、認可外別の入所児童数、入所の割合等を出しています。

19ページについてはこれを地区別に表現しています。本庁地区の保育園、腰越地区にある保育園、深沢地区にある保育園というような形で地区別にどのくらいのお子さんが鎌倉市内の保育園に通っているかということを出して、その入所の数というのが全体のお子さんの入所、入っている数。下のうち受託というのが市外から委託を受けて鎌倉市に預かっているお子さんの数です。合計で1,242人に対して、137人が市外のお子さんということになります。

20ページをお願いします。20ページについては、これも前回委員さんからもお話がありまして、保育所に通っているお子さんの親御さんで、お父さん、お母さんがどのくらい働いているのかを出しています。これは県の方に私どもが報告しています数字でして、公立保育園、私立保育園の数字ですので、認可外保育園の数は入っていませんが、これを見ていただきますと、理由別に居宅外労働いわゆる外に働きに行かれています方、それから居宅内労働これをあわせて、96%の方が保育所に入っている理由として働いているということですので、ほぼ前回お話ししましたとおり保育園にお子さんを預けているお母さん方の就労の割合もかなり高いというふうに見ています。これについては、後でアンケートの調査の結果でもう一度説明をさせていただきます。

21ページをお願いします。先ほど差し替えをお願いしたいということで1枚出しています内容です。市内の未就園児の推計ということで未就園児が絶対数としてどのくらいだというのがなかなか数字的に出ていませんでした。そこでこれは平成12年の4月現在、それから幼稚園の場合には5月現在の数字を使いまして、お子さんの数、幼稚園の在園児の数、それから保育園の在園児の数を単純に差し引きまして、残った数字が未就園児として、ひとつ

見られるかなということで出した数字です。年齢別でいいますと当然なんです、0、1、2歳については、かなりの数が未就園で、自宅で親御さんが見ていると思われま。

それから、3、4、5歳については当然3歳以降幼稚園の方に通われる方が多くなりますので、割合はぐっと減ってきます。3歳児のうちの未就園の割合が43.3%になっているかと思えます。これも前回委員が言われましたが、3歳以上で見ますと下にグラフがありますが、3歳、4歳、5歳というと未就園の割合が非常に低くなります。4歳、5歳については二桁程度のお子さんの数かなというふうに思います。

それから未就園の数、前回委員さんの方から未就園児に対する市の施策として学用品の配布をしている数があるのではないかとということで、調べましたが、ほとんど同じような数字です。4歳、5歳で数十人の数が未就園というふうにその時点では捉えています。前回の会議の中でご質問等あった資料については以上です。

委員長 そうしましたら、資料がたくさんになりますので、一旦この資料3-1で切りまして、これについてのご質問等あるいはご発言や相談していただきまして、どうぞ自由に。

委員 今最後にお話ありがとうございました、その未就園児の未就園の理由とか、そういうのはおわかりにはならないのですか。

事務局 説明の最初にも申しましたが、未就園の数というのを押さえているところがありませんので、その理由等についての把握はできなかったのですが。なお、次回の保健婦さんの説明の中でその未就園の方の状況が出てくるかなというふうに聞いておりますけれども、出ましたらまた次回説明させていただきます。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。

委員 保育園の充足率のところがありましたよね。19ページですか。これ鎌倉の本庁地区のところは100%をちょっと超えているということですが、ほかは100%を超えていないのですが、これ充足率なのですが、待機児童というのはそれぞれあるのでしょうか。

事務局 ここに出ております表については、12年4月1日現在ということで全体の充足率は94.6%になっています。今、手元に見つけられないのですが、10月にはかなり入所を公立・私立保育園にお願いしていただきまして、いわゆる待機児童ということで申し込みを受けても入れないという方が、現在37~38人という数字が出ています。

委員 ありがとうございます。

事務局 それから、ちょっと補足しますが、4月1日現在の充足率はここに書いてあ

るように94.6%ですけれども、具体的な待機児童は確か3名ぐらいだと思います。

委員 4月1日現在ですか。

事務局 それから、ここに書いてある充足率というのはあくまでも0歳から5歳までの全体を押さえた数字ですので、定員全体の数の充足率というのはどうしても低くなります。その中で特に0、1、2歳のところで待機児童が出ているというのが実情です。

委員 充足率というのは定員内実員という考えでよろしいのですか。

事務局 内容的にはそのとおりです。

委員 そうしますと今現在、定員の20%から25%増まで入所させていいことを考えますと、今現在待機児童が37~38人というのはどうなのでしょう。0、1、2歳の問題があるにしましても、定員以外に25%ですか、それだけ多く入れていいということになれば、待機児童はいなくなるということが言えるのでしょうか、言えないのでしょうか。

事務局 4月の時点で確かに全体で94.6%なんですが、それ以降公立・私立保育園でかなりの数、今委員さんが言われましたように定数を超えて受け入れをしていただいています。それで、実際には8月の数字を持っているのですが、ある園では115%程度になっているところもありまして、保育園に協力をいただきながら待機児童の解消に努めています。ただ、当然のことなんですが、やみくもに入れるということができませんので、当然最低基準というのもありまして施設の面、職員の面等ありまして、何でもかんでも入れるということができません。それと年齢別に4歳、5歳については比較的まだ空きのあるところが多いのですが、0、1、2歳の部分で待機児童が出ているということがあります。

委員 今、待機児童の話になっていますけれども、37~38人ということで現在把握されているということ、この地域割りはどうなっているのですか。

事務局 地域割りですか。後で答えさせていただいてよろしいですか。

委員長 では調べて。今お手元の資料の中にあるということですね。

事務局 あります。

委員長 わかりました。

委員 ちょっと就労状況なんですが、共働きの数を把握する方法というのはあるのでしょうか。

事務局 実は国勢調査等で今回もやっていますので、働いている世帯の方を個々にとっているのですけれども、それを集計しているものとして全国版、県レベル、それと人口の多い都市ですね、30万都市とかというもので出ていますが、鎌倉市ぐらいになりますと集計していないということを聞いていまして、資

料を探していただいたのですけれども、個々にはありませんでした。また、担当セクションの統計担当にお願いをしていますが、今国勢調査をやっている担当の方も手が割けないという状況でして、今後出ましたらお出ししたいと思っています。

委員 ありがとうございます。

委員 3歳、4歳、5歳と幼稚園に通っているのですけれども、とってそのお母さんたちが全く働いていないということはない？

委員 保育園は原則として母親は働いています。働いているか、自宅に所用があったりしますが、幼稚園の母親も最近は随分働いている人が多いと思いますけれども、ただ保育園の母親は共稼ぎだということの集計はこの資料でできていると思うんですね。ただ幼稚園の方はそれまでの調査が進んでいないのだろうと思いますね。

委員 はい。まだ掴んでいません。幼稚園の方は一切そういう統計を取りませんので実態はわかりませんが、やっていたとしてもパート就労が多いのではないのでしょうか。

委員長 あとから実際に、この間お話があったように、延長預かりなんていうのが行われている。就労の時間が長いパートがあるかもしれないですね。ほかにはいかがでしょうか。

委員 委員にお教えいただきたいのですが、今、分園ができますよね、どこら辺まで進むのでしょうか。

委員 鎌倉の場合の分園ですか。これは市の方に答えて欲しい。

事務局 今業者の入札選定の段階までできてまして、現実には来年3月に旧平島保育園を使って29人定員の分園を立ち上げるところでして、運営については岩瀬保育園にやっていただくということで進めています。

委員 なんで事務局幹事に振ったかと申しますと、まだ正式にお願いします、建物は市の建物ですから、貸しますという文書をもっていないので、幹事の方に振りました。

委員長 初めて鎌倉市のそういうものができるんですね。

委員 受けることは了承しております。

事務局 すみません。今待機児童の地区別資料を探したのですが、見当たらないのでまた追って提出します。申し訳ありません。

委員長 3-2の説明をしていただきましょうか。

事務局 できましたら、3-2の資料と3-3の資料については、委員さんからの提供ですので、もしコメント等ありましたらしていただいた方がいいかなと思っていますが。

委員長 では、お願いします。

委員

3 - 2の資料については昨年度、鎌倉私立幼稚園協会連合会の中にあります父母の会連合会がいたしましたアンケートの結果でございます。こちらに最初のあいさつ文などは省略してあって、全部グラフになった結果しか載っていないのですが、こういうようなアンケートをする際に一度3歳児健診のときとか、あるいは半年の6カ月健診のときの、赤ちゃんを持っているお母さんたちに本当は聞きたい内容だったのです。子育ての支援をどのような形に、どのような支援が今ほしいですかというようなことを聞いたかったのですが、そのようなアンケートに答えていただけるようなゆとりが、こちらに赤ちゃんを抱えて、こっちの手に鉛筆でアンケートを書くというようなことがとても無理で、あるいは持って帰ってくださったお母さま方もそれをまた提出してくださるといようなことがなかなか時間的に余裕がなかったので、幼稚園に通っているお母さま方を対象に、だけれども自分が幼稚園にお子さんを入れる前に困ったことを思い出しながら書いてくださいというお願いをした上でさせていただいたアンケートです。

一応幼稚園に通わせているお母さんの中に、何人お子さんを持っていらっしゃる方がいるかというようなことの内容を聞きまして、その後やはり入園前にお子様をどのような場所で遊ばせたかとか、あるいはどのようなことをしてお子さんと過ごしていたかというような内容を把握したかったので、1番のような質問事項、「集団生活になれさせるために何か具体的にしましたか」といような形で伺いましたところ、いろいろおけいごとの数が出てきましたり、サークル活動といような形でいろいろ市でなされているサークルの名前だとか、あと自主保育のサークルの名前がたくさん出てまいりました。それで、子育て中に幼稚園に入ってしまったお母さんというのは案外お友だちが増えたり、お子さんが自分の手元から離れる時間があって、その間に1人で自分が今までできなかったお買い物、子供がぞろぞろいるときはストッキング1つ選ぶのも本当に大変なのですが、そういうような買い物もだんだんできやすくなってきていると思うのですが、やはり幼稚園に通っていないお子さんを持っていたときにどのようなことでストレスを感じていたかということとか、あとストレスの解消法が知りたかったのでそのようなことを伺いました。

それで今となっては余り必要はないでしょうけれども、子育て中だったらどのような助けが本当に欲しかったかといようなことで、3番のところでは、やはり経済的な支援を求めているという数が一番多く出まして、その後で出ていたのは一時預かり、保育をしてくれる人や場所が欲しかったり、あるいは子育てに関する相談が身近なところでできる場所ということで、この2つは特に子育て支援センターにやっていただきたかったことだったので、

グラフの横には読めるようにしておきました。それで、子育て支援センターはそのときには鎌倉にはなくて、ほかの茅ヶ崎だとかあとそのころには藤沢にもできてくるというような話を聞いていた最中にこのアンケートをとったのですが、父母連の役員の中で何人が夏休みのときに茅ヶ崎の子育て支援センターに行きまして、それで子育て支援センターの方のお話を伺った後、では市内のお母さんに子育て支援センターという言葉はどのくらい知られているのだろうかということで聞いたアンケートがその4番になります。それでこういう場所があったらいいなということ、皆さんがどのくらい望んでいるかということの結論に達しまして、市内のお母様たちが幼稚園に入れる前にこういう具体的な場所があったらどんなに助かっただろうかという結論を出したようなアンケートの結果になっています。

委員長 ありがとうございます。これが最後のページに今行政や幼稚園に対する要望など、これはいかがでしょうか。皆さん方のご質問あるいはコメントがあれば。

委員 委員さんにお伺いします。この表の2、子育て中に（あるいは現在でも）ストレス・孤独感・焦燥感などを感じたことはありますか「はい」と「いいえ」で書いてあるのですが、具体的な内容、どんなところにどんなところでストレスを感じたかですとか、何かお聞きになっている具体的な原因とか理由とかあったら教えていただきたいのですが。

委員 ちょうど、こちらの今日いただいた資料のところにも何かお子さんのことで困っているということで何か好き嫌いが多いたとか、あるいは子供がほかの子供と比べて自分の子供がなんか劣っているのではないかなというようなことで、焦りを感じたり、あるいはもう本当に漠然とただ自分が取り残されていくような、同じ世代の、例えば女性でまだ若い方なんかは仕事をしている方たちがいますよね、それで世の中に情報が氾濫するがあまり、子育てをしながら仕事を続けているお母さんたちのドキュメンタリーみたいなものを見ると、私だけが家の中でこんなことをしていいのだろうかというような漠然とした不安から始まって、具体的にうちの子供がほかの子供と比べて何か劣っているところがあるのではないかな、あるいは、子育てのやり方がこれも情報が多すぎたからだと思うのですけれども、余りにもこういうやり方がいい、ああいうやり方がいい、いろいろなやり方が多すぎて自分がどれをとっていいのかわからなくなってしまう。昔のようにおじいちゃん、おばあちゃんが一緒にいた場合は、我が家の子育て法ではないかもしれませんが、そういった意味でいいものが受け継がれていくようなものがあったのでしょうか、やはりこのごろは核家族でおじいちゃん、おばあちゃんがそばにいるとは限らないので、そういう点であふれ出る情報の中から自分の子供にとって

何を、なんていうのでしょうか、選択したらいいのかがわからないというように本当にさまざまな不安がありました。

委員 ありがとうございます。

委員長 委員に伺いたいのですが一番目の一番多いのはおけいごとですね。これは幼稚園前におけいごとでもすれば...

委員 スイミング、あるいは体操教室、具体的になんていうんでしょう。お勉強をさせるおけいごととはまた別で、ただ幼児教室みたいなのはとても名前が多く出ました。幼児教室というのは、名前を具体的に出していいのかわからないのですが、よくお勉強の教材をつくっているようなところが幼児向けに幼稚園に通う前に、お絵書きをちゃんとかけるようにするようなお教室ですとか、あるいは数が少しずつわかるようにするお教室ですとか、そういうような幼児教室は名前が大変出ました。

委員 予備校的な感じのところ...

委員 ただそれで、幼稚園の入園試験をパスしようというためのものばかりではないと思うんです。そのためにどこの幼稚園にちゃんと入れましたというようなことは、特に話を聞きませんでしたので、お友だちづくりのためにそういう場所に行かないと今の市内で公園などに行ってもお友だちができない。それで、同じ年のお友だちを探すために近くでやっていた芽生え教室に行ってしまうとか、何々教室に行ったら同じ世代の子供が集まっているので、そこに行きましたというような形でのおけいごとになります。

委員長 同年齢のお子さんたち、いわゆる育てている親御さんたちも含めて、そういう形で出たわけですか。

ほかにはいかがですか。

幹事 事務局に委員長の方からお願いをしていただきたいと思うのですが、たまたまアンケートを見ますと、子育て支援センター、開設前のアンケートですが、その後鎌倉市子育て支援センターを開設して、相当人気があるというか利用状況がよろしいということですので、この後の資料3 - 4のニーズ調査の中には支援センターなり、サポートセンターなりのニーズ調査が出てきますので、この3 - 4の後でもよろしいのですけれど、状況を説明していただければありがたいなと。

委員長 詳しい資料は次回以降、今度はニーズでの対応、今鎌倉が何をしているのかということをお伺いしたいと思います。そのときには少し数字等を上げていただければと思うのですが、今日は少し口頭で、後ほど3 - 4の説明のときにあわせてしていただきたいと思います。

それでは、3 - 3の方で...

委員 今のところで3 - 2のところですね。これ幼稚園の中で聞かれたということ

ですけれども、例えば3の項目の必要なものは何でしょうか。また7ですか、その他市や幼稚園に対してご要望・ご意見等のところで経済的なのということをお先ほどおっしゃっていましたが、こういうふうに解釈をしてよろしいのでしょうか。幼稚園に通っていらっしゃる親御さんのところは、当然お母さんの方が余り働いていらっしゃる方はそれほど比率としては多くないし、先ほども 委員からあったようにパートぐらいだろうということで考えると、確かにお父さん一馬力だけですと大変厳しいですね。それで幼稚園の学費を払って、さらに生活費、さらにこの実態、さらにおけいごとがあるということていくと、そういった生活上のかなり苦しい面が多くあるというふうに解釈してよろしいのでしょうか。

委員 それはそうだと思います。やはり経済的な支援で幼稚園に通わせている家庭に出される助成金の問題も出てくると思いますし、あるいは、そのほかにやはり保育園に通っているお子さんと違って、午後2時半とか3時以降は家にいるわけです。そうするとその間にまたやはり5時まで保育園にいるお子さんと違って、幼稚園のお子さんはおけいごとに通っているお子さんがいます。そうなってくると、保育園に通っているお子さんのご両親のようにお2人で仕事をしているわけではなくて、お父さんの仕事、お父さんがいただいている月給の中から幼稚園の保育費を払って、それでその後のもし例えばおけいごとをするのでしたら、おけいごとのためにもお金が必要になってきます。それでこの幼稚園に対する要望の中にある経済面というのは、大分解消されたと思うのですけれども、1つの幼稚園というか、年長さんと今度一番下の子が2つ違いだと年少に入るといことがすごくあるんですね。それで一時期に2人のお子さんを通わせている場合の補助みたいな形で幼稚園に要望していたお母さんたちが多いと思います。大分解消されてきていますけれども。

委員 そう解消はされてないのではないのかな。

委員 でも前に新聞に出ていましたよね。

委員 保育所の方は、多分鎌倉の場合はそうですね。第二子半額、第三子4分の1という制度があると思うのですけれども、幼稚園の場合は第二子1割を、補助金の1割を補てんするということですから、微々たる金額なんですね。給食1つとりましても、保育所の方はある程度控除になりますけれども、幼稚園はそういう支援が少ないということのですね、問題があるかと思えますけれども。

委員 それでまたそれを保護者の側はわからないので、幼稚園が考えてくれればいいことなのではないかというふうに思っているお母さんたちが多いので、幼稚園に対する要望の中にその経済面ということで、かなりの数字を占めてし

まったのでしょうか、それはまた保育者の側と幼稚園を運営なさっている先生方の間では全然考え方の違う経済的支援だったと思います。

委員 そのこのところでちょっと踏み込むと経済的な支援を求めるとというのが、保育園でも、幼稚園でも基本的なところは同じだと思うのですが、おけいこごともあるとすると年間で一体子供にかかる経費1人、あるいは2人のケースもあるのでしょうけれども、どれぐらいかかるのかというのが出ますか。大体保育園だと所得でね、保育園の場合には所得でもって金額が決まっていますから、高い方だと月々5万円ちょっとぐらいですかね。ですから、年間で5×12とプラス ということで大体計算できると思うのですね。ただそれは所得によっていろいろ違いがありますから、幼稚園そうはいかないというふうに思うのですけど。さらにおけいこごとでお金がかかるということで、そうすると場合によっては大学に通わせるよりもお金がかかっているという実態はあるのではないかとこのように思うんですね。それを30代の若いお父さんがそれを負担していくというのは、かなり大変なことだと、それは全くそのとおりだろうというふうに思います。

委員長 試算は幾つか、多分できると思うのですが、各ご家庭のケースバイケースですから、何か出てくるのでしょうかね。数年前に朝日新聞がそういう試算の合計をやっていまして、私立の高校、大学を出して、ひとりのお子さんで2,500万円という計算をしていましたね。2人育てると5,000万円、ストレートでいった計算ですから、22歳まで。そうすると2,500万円かかると。厚生省の推計で2千何百万円、もうちょっと安いんですね。2,100万円とか2,200万円とか。朝日新聞の方がより現実に近い計算をしております。ただその幼稚園年齢期とか、その保育園年齢期で細かい数字は確か示されていなかったかと思います。

委員 ちょっとよろしいですか。ちなみにいうと神奈川県 averages な私立の高校での月々の授業料そのものだけでいくと約3万円です。平均的に高いところもありますけれども、もちろんそれだけで済むわけではありませんから、初年度総額で安くても80万円、平均で100万円ぐらいにはなってしまうと思うのですが、ですから保育園なんかでいくと、実質はそれ以上というのが実態ではないかなというふうに思うんですね。ですからそれが30代から40代前半ぐらいのご家庭の方に負担としてのしかかっているということの反映ではないかなというふうに思います。

委員長 最近はや早い時期から、いわゆる進学のための保険みたいなことですよ。蓄えられてきますから、その部分はやはり、その都度のところでも金もかかっておりますね。

いわゆる保育料の減免とか出たから、幼稚園の方の就園、補助金制度など。

またこの会合でも詳しい数字を出していただけたと思いますので、では3 - 3の方にいってよろしいでしょうか。

委員

では、3 - 3の主任児童委員連絡会の方から子育てサロンについてとなっておりますけれども、一応主任児童委員連絡会という形で説明させていただきます。皆さんご存じだと思いますけど、民生委員というのがございます。この民生委員の中から主に0歳児から18歳までの児童、この中には妊産婦も入っておりますが、主にかかわる仕事として主任児童委員という形の名前ができました。現在鎌倉市内に大船全部含めまして17名おります。昨年あたりからですけれども、18歳までといいますと児童虐待から小・中学校のいじめとか各問題も出てきておりまして、市内17名ではちょっと忙しいかなという現状になってまいりました。その中でも、3年前から続いております子育てサロンというのが、次の3ページにございますけども、年間約7回ぐらいのペースでやっております。先ほどから出ました子育て支援センターが正式にオープンいたしましたけれども、こちらは当初は福祉センターのみで固定してやっておりましたけども、我々がやっております子育てサロンは市内の子ども会館等を巡回して、年7回から8回かけてやっております。ですからこちらへ来てくださる方というのは大体0歳から未就学児で乳母車とか自転車のうしろに乗せてお母さんたちが集まれる場所ということで、できるだけ鎌倉市内を回るように全部平行して回るようにしておりました。それで目的は、前回も前々回もお話いたしましたけれども、特に幼稚園に入る前、幼稚園、保育園に入る前のお子さまがどうしても孤立しがちだということで、同じような悩みを話し合える、子育てについての悩み、またお母さまにとっても初めてのお子さんでどういうふうに育てていいかわからないけれど不安、そういう不安を皆さんで話し合ってもらえる場所を提供するというので、我々はその間お子さんをけがのないように見てあげますよという形で進んでおります。こちらも広報かまくらに毎掲載しておりますが、ほとんど広報かまくらを見ての申し込み者なんです。それで喜ばれておりますけれども、午前10時から11時半ということです。これはなぜかといいますと、子ども会館、児童会館の方はお昼から1時まではいろいろご事情で閉めてしまうという形でやっておりましたが、今年度に限り2回だけ12時から1時まで、もう少し開放してほしいということで、参加して下さったお母さま方とお弁当持ってきていただきまして、お昼をともに食べて、もうちょっとコミュニケーションを深めたいという形で本年度はやっております。我々の希望としてもまた参加者の希望としても、できれば特に10月ですか、やりました中央公民館の和室をお借りしてやったときはとても盛り上がりまして、それではこれで終わりですからと言うのが気の毒のような形で、そう

しましたらお母さま方のそれぞれ乳母車へ乗せまして、エレベーターでお話しして、また下のギャラリーでも話をしたりをして、皆さんで電話番号を聞いたりしまして、後々きつと連絡をとりあったりしているのではないかと思いますけれども、もう既に今までそういう形でその場で初めて会った方同士が連絡を取り合いまして、幾つかのグループができているようでございます。これは私たちが希望とすることでしたので、大変喜ばしく思っております。

それで、3ページの方にちょっと大きな版なんですけれども、子育て支援活動の表をまとめてみました。1番目が「子育てサロン」は主任児童委員連絡会で行っているものでございます。次の主任児童委員自主活動「のびのび子育てグループ」と「ママとあかちゃんのたまりば」、「子育てフェローズ」、「大町こぐまの会」こちらは主任児童委員が自主的に行っております。それぞれ年間10回、12回、24回となっておりますが、こちらは主任児童委員のほかに保健婦、民生委員、ニーズ対応チームなどの応援を得て各地区の主任児童委員が自主的にやっております。

その次は子育て支援センター、これが今年度から正式にスタートいたしました福祉センターでございますけれども、これは市内を巡回して回ってやるようになりました。こちら回数もかなり頻繁でございます。それとあと鎌倉市内の支援グループとしましては、保育園・幼稚園の地域活動。それとここには載っておりませんが、民間子育て自主活動がございます。これも大変数多くございます。

その左方の2ページですけれども、子育て支援グループの懇談会というのがございます。こちらは右に書いてあります主任児童委員の子育てサロンまた主任児童委員自主活動の4つのグループ、それと子育て支援センター、それと民間の子育て自主活動、こういう方が全部一堂に会しまして、まだ不定期ではございますけれども、福祉センターの方で懇談会を開いております。こちらはもう我々は、もしかしたら孫になるかなという年代でございますけれども、全く現役の若いママたちが中心になっている自主グループも参加しております。ここに出席いたしますと本当に現場での苦労話ですが、一番下に懇談会に参加している子育て支援グループ、「なかよし会」と、いろいろ書いておりますけれども、なるほどなと大変参考になる意見が出ております。

先日出たときですけれども、やはり委員から先ほども出ましたことなのですけれども、今鎌倉で子育て中の親に何が一番欲しいかということで、やはり経済的支援というのが非常に多いとこれは子育て中の親にお金をくださいということではないのですね。鎌倉というのは環境は非常にいい。海あり、山あり、神社ありですけれども、気軽に遊びに行ける公園が比較的ないわけですね。我々今公園調査していまして、来期になるかもしれないけれども全

市のマップができ上がるわけなんですけれども、夕方になると中学生、高校生が来てたばこを吸うだけの場所とか、そういう感じてとても子連れで遊びに行けるところではないんですね。また、お寺はたくさんありますけれど入るのにいくらかかかりますね。それに入っても何々をしてはいけないということで気楽に遊べる場所ではない。子育てがとてもしにくい街だという意見が出ているんですね。そこら辺も先ほどの調査の結果を伺いまして、ああ、なるほどなとは思いましたけれども。それと鎌倉市の場合は若い世代、子育て中のお母さま方が活発にいろいろ活躍はしているなという気はしますけれども、ただそれをまとめてそれをどこに持っていくかという力がまだない。周りの者がちょっと力を貸して上げたら、もっとすばらしい形になっていくのではないかと考えております。

委員長 ありがとうございます。

まさに今子育てをしている親、お母さんといえますかね。声の紹介をしたのですけれども、いろいろなグループが活動をしていらっしゃるということも教えていただきました。

この件に関して何かありますか。ご意見とか、あるいはご質問があれば。

委員 私も「かぜの子会」の出身なんですけれども、この上の「子育てサロン」から「大町こぐまの会」までのところはスタッフの中に主任児童委員の方がこうやって出ているのですが、この「子育てひろば」、子育て支援センターでなさっているところは子育てアドバイザーになっているのですが、この違いみたいなものは何かあるのですか。

委員 違い、皆さん目的は同じということで細かく言えばいろいろございますけれども、目的は同じという形でとらえていただいてもいいと思います。あくまでも、お母様方の集まっていたいろいろな不安などを話し合っ、いろいろな形がございますので、話を聞いて上げるという形です。

委員長 子育てアドバイザーは後で説明をしていただきましょう。

委員 委員さんに伺います。2つ伺うことがあるのですが、今悩みとかいろいろなこと出し合っということだったのですけれども、私カウンセリング事務所で小さいお子さんを持つお母さんも時々いらっしゃるのですけれども、その中でお乳を飲ませることができない、ぞっとするとか、あと子供が全然かわいくないのだから、自分のマイナス面を出されているのですが、そのような感じの深い話というのですか、自分のマイナス面を出し合いながらみんなで話を聞き合っみたいな、そのような深い話まで出てきていますか。

委員 それは最近ありますね。先日ありましたのが、結局今のママたちは若いころバリバリ働いていた方で、ポツと家庭に入って子育てだけで自分だけの「個」になってしまうんですね。たまたま広報かまくらをご覧になって申し

込んで来られた方なんですけれども、「すごく子育てが辛い」とおっしゃるんです。疲れるそうです、一日子供と2人だけだと。主人は朝生き生きと出て行って夕方帰ってくるというのです。主人にそれを打ち明けると「女はそれが仕事じゃないか」と言われたというのです。ちょっと目が潤んでおりましたけども。我々はそういう場合は、専門的な方とまた違うと思いますけれども、我々も同じようにして子育てをしてきた経験者としての言葉になるのですけれども、本当に子育てというのは一時なのですよね。小学生の高学年になったらもう親なんかほっぽって1人でどこかへ行ってしまおうのです、お友だちと。だから子育てを楽しんで本当に子供と子育てを楽しめるのは今のうちですから、うんと楽しんで肩の力を抜いて気楽にいきましょうよという形で一応アドバイスはしておりますけれども、その程度ですね。

委員 ありがとうございます。受け入れられるというか、みんながなるほどそうだと受け入れられる悩みというのは比較的出しやすいのですけれども、自分が言ったために何て母親だろうとか、子供がかわいくないなんてとんでもない、母親としてあるまじきとか、そういうふうに思われるような悩みというのはなかなか言えませんよね、受け入れられないというか。だからそういう悩みもどんどん出せるような場であつたらいいななんて思ってお話聞いていたのですけれども。

委員 あとこの間出たのですけれども、やはりどうしても男の子の方が活発ですね。2歳ぐらい。そうするとそのお母さんが「本当に言うことを聞かないでこの間ひっぱたいちゃったんですよね。これって虐待なのでしょうか。」「うちもやっちゃったわ」とか、そういう雰囲気ではしていますね。そして、うちもやっちゃったのよ、この間ひっぱたいちゃったとかという方がいれば、そのお母さんもやはり他にもそういう人がいるんだという安心感ですか持つようです。

委員 ありがとうございます。もう1つは子育てサロンについて資料3-3の子育てサロン参加者の感想からというところなのですけれども、とてもプラス面が書いてあるんですが、子育てサロンも4年目となりということなんです、子育てサロン自体での問題点とかトラブルとか、子育てサロン自体についての何かマイナスな問題とか意見とかそういう感想はありましたでしょうか。

委員 今のところ、マイナス要因はございません。

ただ、もう4年目になりまして、かなり行き渡っているかなと思いますけれども、初めてですという方もまだいらっしゃいました。

委員 先ほどの幼稚園に通わずに保育園にも通わないで、お家でお母さんといる3、4、5歳のことが余り理由とかがわからなかったということと少し関係をするのですが、ここの表にある対象年齢が0歳から未就学児、1つだけのびの

び子育てが幼稚園に入る前のお子さんを預かっているということがこの1歳半から3歳未満ということでわかるのですが、実は茅ヶ崎の子育て支援センターに行きましたときに、私どもは幼稚園児を持っている母親でしたし、夏休みの間に茅ヶ崎まで行かないとどうしてもこのアンケートをつくり上げるのに間に合わないということで、夏休みに出かけて行ったのですが、そのときに年長児と年中児を何人一緒に連れていくのですがということを経験した方の方に申し上げましたら、「いや、ちょっと幼稚園児は困ります」とすごく言われまして、ここの子育て支援センターに来るお子さん方はみんなお母さんと一緒に来ている小さいお子さんが多いので、園児のようなもう活発になっているような大きい子が来ると困るのだと言われて、私たちは子育て支援センターを見に行くのに自分の子供をどこに預ければいいのかがまず困ったんです。それで私どもが子育て支援センターを鎌倉でつくるときには、ぜひ幼稚園児も来てほしいようなところにしてほしいということをお願いしてこちらの方に子育て広場のところには未就学児という形になっているのですが。実際に本当ならば幼稚園に通っている年代なのに幼稚園に通わずにこちらの「子育てサロン」ですとか、「子育てフェローズ」などのこの6歳以下のお子さんを預かってくれているところに来ているお子さんというのはいらっしゃるのでしょうか。

委員 我々が把握している時点では幼稚園も保育園も行っていらっしゃるお子さんというのがあるようには思えないのですけど。

委員 そうですか。ではそういうところから理由を掴むのはちょっと無理ですね。

委員 そうですね。

委員 何か余りにもこちらの「子育てサロン」の方が楽しいから、幼稚園なんか行きたくないという理由があって、幼稚園に行かないお子さんがいてもとてもいいことだと思いますし、あるいは「なかよし会」では、「なかよし会」を出た後、幼稚園に入ってしまうと「なかよし会」で培われたい雰囲気、それぞれ別々の幼稚園に行くことによってなくなってしまうといけないうので、「なかよし会」を出たらそのまま学校に行くまで「なかよし会」をやってみようという形で幼稚園に行く対象のお子さん方が「なかよし会」にそのまま残っていたりするという話も、やりたいなということを行っていることを聞いたことがあったんです。

「かぜの子」はもうそのまま卒園するとすぐ幼稚園ですよという形になっていたのですけれども、「なかよし会」のお母さんの中ではもうちょっと後2年間頑張ってみようかというお母さんがいたので、ここで急に数が今まで5歳児が11人だったのが、6歳児が24人と増えていたので、もしかしたら、その「なかよし会」がちゃんと発足させて今まで幼稚園に行ってしまっただけ

れども、やはり「なかよし会」に戻りたいというという増えてのかなと一時思ったくらいだったのですけれども、実際にこういうところで過ごしているお子さんがいたら、そういう理由も聞けるのかなと思ったもので伺ってみましたので。

委員長 開催頻度、回数があると、なかなか幼稚園のかわりとなるものは難しいかもしれませんね。委員がおっしゃっていたように、少しこういう子育て支援の親の会なんか進みますと、やはり年齢別の人数に応じてやってほしいなというのが、要求みたいなのが出てくると思います。やはり寝ている子の横を5歳児が走り回ると怖いということもありますよね、先進的にやっている部分が出始めると。

この子育てサロンは一般的に平日にされるのですね。

委員 はい、平日です。

委員長 なかなかやはり父親の姿というのは出てこないですね。この間、私耳の痛い話もありまして、そもそも父親の育児参加とは何ごとだと、参加というのは普段何もしていないから、綱引きに参加するようなもので、そもそも育児をしていなければいけないのに育児参加という言葉自体がおかしいと言われまして、なるほどなと思いました。しかし、なかなか父親の姿というのはこういうところに出てこないなと私は思いました。

さて、この3 - 3よろしければ...

幹事 原局の立場でちょっとお話し申し上げたいと思います。

私ども、今民生委員、児童委員200名、それから先ほど委員さんがおっしゃられました主任児童委員17名の方がいらっしゃいまして、それぞれ地域でご活躍いただいております。この場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。

先ほどのご説明の中で、子育てサロン、各子ども会館を巡回してなさっているということで、その中で時間が基本的には10時から11時半ということですが、何力所かは時間延長して12時、1時までやって非常に評判がよかったとこういうお話でございました。12時から1時というのは恐らく子ども会館職員の勤務態勢等の理由で閉鎖しているのではないかと思いますけれども、私ども原局の立場としてその辺もう一度教育委員会に聞きまして、時間延長、常時とは言いませんけれども、臨時的に何回か柔軟に対応していただけないかどうか再度努力してみたいと思いますのでご報告させていただきます。

委員 よろしくお願いいいたします。

委員長 一緒にいてご飯食べるだけでも楽しいですね。

委員 そうですね。

委員長
委員

そこで話がね。

ちょっともとに戻ってしまうんですが、委員長が言われた中に父親の姿がということで、父親の方から、たくさんの父親が本当にかつてに比べるとかなり子育てにはいろいろな形でかかわろうとして努力をしている方が多くはなっていると思うのです。ただ、それが非常に見えにくいと思いますけれども、その努力の仕方はさまざまなようで、それはそれぞれのことで評価するとして、先ほど来、委員や委員から報告された中で、やはり強調されていたのが、1人1人のお母さん方を孤立させるのではなくて、同じ悩みを抱える者同士が交われるようなところ、それが幼稚園であったり保育園であったり、子育ての支援サークルだったりいろいろなものがあると思うんです。そういう場面が必要になってきているんだと、大事なんだということが1つあると思うんです。そうするとそれを通じての1つは地域の問題、子供を通じて私たち地域を知るんです。子供を通じてあのお母さんとかあのお父さんということであいさつが始まる。これはすごく重要なことであろうというふうに思うんです。それを行政がどういうふうに地域としてつくり上げていくのか、たくし上げていくのか、そこを1つ考える必要があることだろうと。

それともう1つ父親の立場でいきますと、幾つかの、例えば保育園なんかでは親父の会をちょっとやらないかとか。そういうのが上がっていたりするんですね。ただなかなか勤務の都合で難しいんです。それで一番保護者の会とかあるいは懇談会とかに行くときにお父さんはやはり少ないんです。大抵決まっているお父さんが来るんですね。そうか、またあのお父さんと会うのかという感じになるんですが、そのときにお父さん方からやはり出てくる声、なかなか声出しにくいんですお父さん方。なぜかというところ、言い方変だと思われるかもしれませんが、実直なところでして、女の人たちの会話なんですよ、なかなか入りにくい。そういうものが物すごくあるんです、男の人にとっては。その辺はなかなか、それぞれの中での、なんて言うんでしょう、運営の仕方といいますか、話し合いの持ち方、そういうことも少し配慮していただくと男の人もいろいろなことを話ししますし、いいのではないかなというふうに思うんです。その辺もちょっと配慮しながら、地域ということも見ながら子育てを考えていく。そういう共同の関係づくりをつくっていくといいのではないかなと、そういうことが見えてきているのではないかなと思います。

委員長

委員さん、この調査で実際答えられているのはお母さんが多いのですよね。

委員

ほとんどお母さんだったと思います。実際私どももつくる時にお父さんが

答えてくれるかもしれないということは頭になかったです。本当にお母さんが答えてしまうだろうなと思っていましたし、父母の会連合会なのですが、各幼稚園から来ているのはほとんどお母さんで、ことしお父さんが1人、幼稚園の代表として出てくださっているんですが、保育園の保護者の代表は男性2人で、私は幼稚園の保護者の代表なんですが、こういうところにもお父さんが出てくるとよかったのかもしれないなといまさら思います。

委員長 ちょっとフライングなのですかけれども、この3 - 4の子育てによる調査なんかも答えてくださるのはお母さんなんですよ。

事務局 はい。

委員 子育てサロンがいつ、どこでやっているというのは広報で知らせているのでしょうか。

委員 広報で出しております。それと今年度からかまくらFMと鎌倉ケーブルテレビですか、あちらでも呼びかけをしていただいております。それで主任児童委員の家にファクスなり電話で申し込みという形にしております。もちろん申し込みなさってなくても、当日いきなりでも受けて入れております。

委員 幼稚園には掲示板がありますからね。周知徹底して知らしめるというのでしたらいくらでもご協力はできるかと思います。

委員 1つ確認をしたいのですが、子ども会館というのはお昼に閉めるんですか。

委員長 閉めるというのがね、あれですよ。 幹事、ここまでの感じでもそれはなんとか調整をしたいと。

幹事 教育委員会の、恐らく職員の勤務態勢の問題ではないかと思うんですけれども、ちょっとその辺の詳しいことがわかりませんので、また次回までに聞いておきます。

委員 そうなのですね。実は11時半というのは結局大人でしたら、さっと荷物まとめてさあ帰りましょうでしょうけれど、お子さんはやっとなんか帰らないので、30分ゆとりを持っておかないということで11時半、それでも12時きっちりにはなかなかお子さんも出ないんですよ。それで職員の方がどこの子ども会館でも全員出してから玄関を全部閉めてしまうのですね。入れないんです。

委員 役所の窓口だって昼休みに勤務していますよね。毎日やっていますよね。なぜ子ども会館だけ…。

委員 子ども会館は大体はすぐ隣に公園みたいにありますよね。そこで、この間大船でやりましたときも1時過ぎまでお母さん方、公園でずっと遊んだり、お話ししておりましたね。たまたまお天気がよかったからいいのですけれど、雨だったらせっかくいい雰囲気になってもそこでじゃあさよならと皆さん帰

らなければなりませんから。

委員 ぜひ子供本位に考えて開けてくれるように、力いっぱいブッシュしてやらないと…。

委員長 もったいないですよ。

委員 では今子ども会館の話が出ましたので、ついでにお願いしたいんですけども、子育てサロンに見えたお母さまから質問されたのですね。児童会館はいつでもだれでも行っていいわけですね。どなたかが電話して午後のことを伺ったら、午後は大きいお子さんが、学童保育の方が帰ってくるわけですね。だから「だめです」とはっきり言われたところもあるというんですね。または「学童保育の大きいお子さんが見えますけれども、気をつけて来てください、小学生と1歳、2歳の子とは大分違いますので」という言われ方をしたところもあるようです。私もそのときに「だめです」とはっきり言われたんですけど、ちょっとびっくりしたんです。そこら辺をもうちょっと統一していただいてと思います。

幹事 そうですね。その辺も含めまして、当たってみます。

委員長 よろしくお願いします。

さて、3 - 4の方に入りたいと思うのですが、委員、父親の声を聞ける何か算段があるか、あるいは普段そういうことに出ているらっしゃってほかのお父さん方の話を聞かれて、統計的にはないのですが事例的に今こういう子育てのニーズがあるぞというのがもしご披露いただければちょっと話をしたいと思っています。いかがでしょうか。

委員 保育園のことしかわからないんですが、そこは父母の会の役員が会長1名、副会長2名いたんですが、これはもう父親というふうに決まっております、それは一番最初に父母の会をつくったときに基本的に父親は育児を母親に任せがちで、母親は保育園に任せがちということになるので一番任せる張本人である父親が役を持ってやろうということで、父親。そういうこともあって割りに父親の保育園に来る回数というのはい多いことになります。ただ例えば父の日の行事だとか、母の日だとかという行事があるんですが、ちょっと具体的にはよくわからないのですが、例えば父の日の行事ということにしますと、このごろ父親のいないお子さんというのがだんだん増えてきてまして、その子供たちのケアということもありますので、なるべくその父親の日だとか母親の日だとかということについては避けた方がいいのではないかという議論もありまして、割りに父の日にお父さんが集まるというのは集まりやすいのですけれども、そういうことがしにくくはなっています。

あとはいろいろな行事の際に、例えば運動会の朝の支度だとか、もちつきをするときの火の番だとかつくってお手伝いだとか、あと大掃除だとかというこ

とでなるべくその園と父母の会と連係して、父親が参加できる回数を、具体的にお父さんなるべくお願いしますという形で設定をしてそれでやるということです。あとは在園児のお父さん、卒園児のお父さんも全部含めてですが、ソフトボールなどのチームをつくってそれでそのおつき合いは子供が中学生、高校生になっても続いているという話はよく聞いております。

だから何かそういう仕掛けをすると、お父さんも実際にはやりたがっているお父さんも多いのではないかと思うのですが、なかなか仕掛けがないと出にくいということがあるので、いろいろ仕掛けをつくってやるというのが1ついいことなんではないかなというふうに思います。

委員長
委員

委員いかがですか。父親の声、お聞きになって。

今 委員がおっしゃったように、1つは参加しやすい条件とか、話やすい条件をつくって上げるということとはとても大事だと思います。懇談とかありますとやはり父親の方が普段自分の子供の実態を見ているわけではないわけですね。夕飯の時間帯にいるかというといない。帰ってくるのは寝てから、朝出るときも顔を合わせずに行くとか、そういうケースが非常に多いし、父親が夜帰ってくるのは10時、11時というのがそんなに不思議ではないのが実態ですので、ほとんど子供の様子というのが見られない。子供の様子を見る1つのパイプになるのが、例えば保育園でいけば連絡帳というのをやっていますけれども、それが1つのパイプになります。あとはやはり父親が足を運ぶということとはとても大事なことだろうというふうに思います。

ですから、かつてに比べれば三、四年前に比べても父親がお迎えに行かれる方というのは非常に増えているのではないかなと思います。それはそれで非常に、それぞれの母親と父親との勤務条件に合わせながらやられていることですので。ただその中でやはり私たちが迎えに行く時間というのはまちまちですから、たくさんの方と会うわけではないんですね。大抵会う方というのは同じような方が多いわけですが、やはり先ほど 委員がおっしゃったように仕掛けですか。特にいいのは、いわゆる一般的には男性の出番ですか。運動会やるときにその荷物を運ぶのをぜひお願いしますと、そういうことを園の側で言うだけでそれはたくさんの方がご協力願えると思うんですね。あるいは幼稚園や保育園で幾つかのところではバザーなんかやられていると思うんですけど、そういうところはたくさん父親の参加があると思うんです。そういうところを通じて父親が話をできる、交流できる。それともう1つは日常的にやはり子供たちの様子のお話ができるような連絡ノートのあり方とか、ぜひそういうことを園の方でもやっていただくと大分違いが出てくるというふうに思うんです。帰りのところで例えば担任の先生に会えないとかそれはさまざまな条件があるから一律にはいかないことで難

しいですけれども、そういうパイプをやはり誠実につくっていただく。それから、先ほど 委員のおっしゃっていたように出かけていけるような、参加しやすいような機会をたくさんつくっていただく中でお互いに交流できる場面をつくっていただくと、基本的には似たような状況が父親の中にありますので、お互いに安心感が広がって行って共同意識ができていくのではないかと思います。ですから、保護者それから、園の方とよく話し合って協力しながら場面をつくり出すということがよい保育であり、よい幼稚園をつくっていくということにつながるのだらうと思います。

委員

私の子供が通っている幼稚園などは、お父さんにお祭りのときとかに手伝ってください、おもちつきるときに手伝ってくださいということと呼びかける点ではとてもよく呼びかけているとは思いますが、その中でもやはり前の日の仕事が遅かったのではそんなことはできないとか、あるいは1番こういう点で違うのだらうなと思ったのは、保育園に通っているお子さんのご両親というのはお互いが仕事をしているから、お互いが協力をしなければいけないという気持ちをご主人側にもあって、それで奥さま側にもあってお互いに交互に迎えにいたりすることもできると思うのですが、いろいろな統計を見ても幼稚園の中ではもうパートをしているお母さんが数%で、ほとんどが専業主婦ということなので、それはもう女の仕事だらうというふうなことになるので、幼稚園に通わせているお子さんのご両親はそういう考え方がすごく強いのではないかなと思うんですね。

だから、たまにお祭りなんかでお父さんが手伝ってくれているとだれだれさんのお父さんはすごいということになって、やはりみんなありがとうという感じで見るとすけれども、そうでない場合はほとんど仕事で疲れているのに休みのときまでということを言われますし、なんか考え方がやはり違うような気がします。女の人が仕事を持っている場合と、専業主婦の場合の男の方の考え方、あるいは社会全体が。そこまで仕事が忙しくなっている男性もかわいそうだしと思います。

委員長

全体的に、恐らくもう一回この辺の話をしなければいけないと思います。

今日はお話を伺うということで少し先に進みたいと思います。

3 - 4の説明をお願いします。

事務局

それでは資料3 - 4「子育てニーズ調査報告書」説明いたしたいと思います。

1ページを開いていただきますと、この調査の概要としましては、就学前のお子さんを持つ市民の方の子育ての実態、これは保育園・幼稚園、それからどちらにもまだ通っていない方を含めまして保育ニーズですとか、子育てに関する意向調査をしていくということを目的に調査したものです。

調査設計のところで地域全体の在住者なんですが、就学前の児童を対象にし

ています。対象者数1,000人ですが、内訳としてここに書いていますが、保育園が合計16園で対象300人、幼稚園が23園で575人、それから個人、個人というのは実際には調査しているのが乳幼児の健診、1歳6カ月健診ですとか、3歳児健診等を通じまして125人に配布をし、これは数字は少ないんですけども、保育園・幼稚園・未就園児を調査したという内容です。

調査項目等についてはここにあるとおりですが、この調査の集計に当たりまして、市内の地域性ですとか子供の年齢の状況を加味していません。保育園、幼稚園の協力を得てやっていますので、その辺のバランスが出ていないというのが実態です。ですので、鎌倉市全体の状況をしっかりと表しているとは思っていません。今回これを報告するに当たりまして、報告書の作り方なんですけど、保育園、幼稚園、未就園別に集計を出しています。まとめてしまいますとやはり、絶対数の多い幼稚園のバランスに引きずられていってしまうような数字もありますので、対象別に保育園、幼稚園、未就園という形で集計をしています。

回収率につきましては81%となっています。それから、回答の中で複数回答という設問もありますので100%を超えたり、それから集計上100を超えてしまうということもありますので、お断りしておきます。

それでは2ページをお願いします。2ページについてはお答えをいただいた方々の年齢とそれから続柄が最初になります。先ほども委員から説明ありました昨年実施された調査にもありましたが、お答えいただいているのは保育園、幼稚園それから未就園ともにほとんどの方がお母さんだろうというふうに思われます。年齢的には20代、30代のお母さん方がやはり圧倒的に多くなっています。

問1、4ページをお願いします。ここは全員の方に家族の状況についてお聞きしています。家族についてです。保育園、幼稚園、未就園についても当然お母さん、お父さんそれとお子さんという形になってはいますが、どこの調査対象も15%から20%ほどおじいさん、おばあさんが一緒に同居されているというふうに答えをいただいています。

それから、お子さんの人数なのですが、保育園については、1人と2人あわせて67.5%、約7割が1人から2人。それから幼稚園についても、2人というところが半数を超えてはまして、1人とあわせるとやはりこれも70%を超えています。未就園についても、1人ないしは2人という傾向が出ています。

6ページをお願いします。お子さんの年齢についてお聞きしていますが、傾向として、保育園については、年齢構成として1歳から7歳以上まで満遍なく

10%から17%ぐらいまでの数字で、6歳は若干低いんですけども、比較的幅をもっています。それに比べて幼稚園については4歳から7歳以上で比較的年齢が高いお子さんかなというふうに思います。それから、未就園の方については、1歳から3歳までが数としては圧倒的に多いという状況です。

問3以降についてはお子さんが2人以上いるご家庭も当然あるということから下の年齢のお子さんについてお答えくださいということで設問を設けています。次のページの問4については各々保育園、幼稚園それから未就園も同じようにとっているんですが、家族でお子さんを見る以外に幼稚園、保育園等に通わせていますとかということと、それから行っている先、行っている時間等を調査しています。

まず保育園では当然なんですが、本来100%を通わせているという形で見るとではないのかなと思うんですけども、通わせている保育園については、公立保育園が47%、民間の保育園が40%、無認可の保育園が8.4%ということで、これは保育園数の割合と同じようになっています。先に保育園の傾向、時間等の傾向もあわせてお話ししますが、現在保育園に通っているお子さんの登園の時間ですけども、8時半以降というのが50%を超えています。50%以上が8時半以降というのは、保育園の場合一応9時までに入所というのがありますので8時半以降が多くなっています。しかし、見ていただきますとおわかりのように7時からという子どもも何%かいて、早い時間に通園されている方もいるようです。

それから終了時間なんですが、これについても一番多いのは4時から6時前までが約4割なんですが、延長保育をしているということもありまして、午後7時までも55.3%とかなり高い数字になっています。

次に幼稚園ですが、幼稚園に通っている方が当然ながらほとんどで、幼稚園も開始の時間を見ますと8時半以降が69%で、ほかの時間帯はほとんどありません。無回答が多いですが、これは設問の仕方幼稚園の場合、9時以降の登園があるのかなと、これ設問で8時半で切ってしましまして、回答用紙の中にその辺をコメントされている方もいますので、ほとんどが8時半以降の通園時間なのかなと判断しています。

終了時間についても、4時半以前というのが73%で、ほとんどです。やはりこれも無回答が26%と多く出ていますが、問3と同じような設問で、4時半以前、幼稚園の場合には2時半ですとか3時という場合もあると聞いていますので、その時間帯がなかったものですから、お答えがいただけなかったのかなと判断しています。

それから、次の10ページ、11ページをお願いします。これについては土

曜日の状況を聞いています。土曜日に自分または家族で子どもを見る以外に保育園、幼稚園等に通わせているかという設問です。

これも対象別に説明しますと、保育園については約26%、4分の1が土曜日も通わせています。通わせている1カ月当たりの回数は1回、2回あわせると60%を超えていまして、今週休2日制で月に2回は休む方が多いという傾向と思うんですが、1回、2回あわせて6割を超えています。

4回以上で、毎週土曜日保育園に通っているという方も件数として11件ありますので、そういうお子さんがいることも承知しておく必要があるかと思えます。

それから幼稚園ですが、幼稚園については29%、約3割の方が土曜日幼稚園に通っているということですが、回数としてはやはり2回が75%ですので、通わせている方のうち4人に3人は月2回と見ることができると思えます。

12ページをお願いします。登園の時間と降園の時間ですが、保育園については登園の時間は8時半以降が半数、降園の時間が4時半までで、これは公立保育園が保育時間を4時半までと設定していますので、その傾向がここに出ているのかなと見ています。

幼稚園については、登園がやはり8時半以降、降園の時間はお昼前にほとんど帰ることになるのかなと思えます。

14ページをお願いします。お答えいただいた方の住んでいるところを聞いています。最初に申しましたが、ここで地域別のバランスが出ていますが、保育園については、鎌倉地域が33.7%、大船地域が26.5%ということで鎌倉地域、大船地域が多くなっていますが、これは先ほど3-1で説明しました地域分布とは若干変わってきていますので、調査結果としては市全体を表してはいないかなと思えます。それから、幼稚園については鎌倉地域が43%でかなり多い数字が出ています。未就園も37%と高い割合となっています。

それから、問8、問9についてはお父さん、お母さんの仕事、就労の状況についてです。ここで前回以来、就労のお話がずっと出ていましたが、若干傾向が見えるかなというところでは。

これも対象別に説明をしますが、保育園ではお父さんの92%の方が働いています。働いていない方2件も出ていますが、調査の時点でたまたま離職されていたということで求職中の状況でした。無回答の方がいるのですが、これは仕事をしていると判断できるのではないかと考えています。それから、保育園のお母さんですが、237件、95%で、やはり先ほど来ていますが、ほとんどのお母さんが働いていると読み取れるのではないかと考えてい

ます。それから仕事の形態なんですけれども、お父さんについては常勤で、いわゆるフルタイムの勤務の方が81%、自営業をあわせると90%以上がフルタイムの仕事をしていると読み取れるかと思います。それから、お母さんについては51%の方が常勤です。自営業の13.2%をあわせると保育園では6割以上のお母さんが働いている。共働きというところが先ほどから話題になっていますが、これを単純に見ますと6割以上が共働きの世帯と、見たらいいのかなと思います。

それから幼稚園の就労の状況ですが、お父さんについては97%、これもほぼ100%とっていいと思うのですが仕事をしています。お母さんについては、16%の方が仕事をしているという答が出ています。16%の内訳はその下にありますが、パートが33%、それから自営業が23.9%と高い数字が出ているんですけれども、やはりパートの割合が高いのかなと思っています。それからその他の件数が29件でかなり高い割合を示しているんですが、これは調査の中では何をしているかというのを調査していませんが、考えられるのは内職の方とそれから自営業のお手伝いということで自営業を直接自分でしてはいないけれども、自営業のお手伝いをしているという方がこちらに含まれるのかなと考えています。

それから、未就園の方についてはお父さんが働いている方が100%、それから未就園の方でもお母さんが働いているという方が6人ほどいましたので、その傾向を見ますとパートが2件、正確な数字としてパートという答えの方は2件ですので、全部が全部専業主婦ということではないだろうと思っています。

16、17ページをお願いします。就労の続きなんですけど、いつ働いているかということで保育園、幼稚園、未就園ともに月曜から金曜の間、いわゆるフルタイムの方が月曜から金曜、それから土曜日でも保育園のお父さんについては55%程度、半分以上が土曜日にも働いているという傾向です。それから保育園についてお母さんも月曜から金曜がほとんど、それと土曜日については約4割程度ですね働いていらっしゃるといわれているかと思います。

幼稚園については、お父さんはやはり月曜から金曜、それから土曜日でも4割程度は働いているということですね。お母さんについては、76%ということになっています。それからその下にあります仕事をしている時間帯ということで聞いているのですが、午前、午後とこれフルタイムが当然多いということなんですけれども、そのほか昼夜勤務とかというのも若干数字が出ています。

次の18、19ページをお願いします。問9なんですけど、ここでは働いていない方に聞いているんですが、件数は非常に少ないんですけれども、保育園

で働いていないというお父さんについては先ほど言いましたように仕事を今探している、たまたまこの時点では求職中だということになるかと思えます。幼稚園の方も同じようなことですね。具体的に働く予定はあるということですので、お父さんは皆さん働いていると思っています。

20、21ページをお願いします。働いていない方のお母さん、非常に件数は少ないんですが、仕事を探しているという方が3件ほどあります。それから、病気などのために働けないという方が2人いるというのが保育園の状況です。

幼稚園ですが、傾向として「子育てがある程度落ち着いたら働きたい」という方が55%、かなり高い割合でいるのかなというのが見えています。それに対して6番目の「働くつもりはない、子育てに専念している」という方が24%いるというのも幼稚園の特徴というか保育園と比べますと特徴的なのかなと思っています。それから未就園も幼稚園と同じような答えが出ておまして、「子育てがある程度落ち着いたら働きたい」が55%、「働くつもりはない」が30%ということで幼稚園、未就園については同じような傾向だと思っています。

次の問10、22ページをお願いします。ここから25ページまでが保育園に通っている方に聞いた内容です。

まず22ページの保育園に通い始めた年齢についてですが、産休明け直後から5歳までということで設問を設けていますが、3カ月になってから保育園に通っている、または1歳から通っているということでこの二つをあわせると6割以上が1歳までに保育園に預けるということです。

それから、24ページをお願いします。保育園に通わせようと思った理由で1番から13番まで設けていますが、1番多いのは8番目の「仕事をしており、またはこれから仕事を始めたいが子どもを見る人がいない」から保育園に預けるというのが圧倒的に多くなっています。それから、次は13番目の「子供に集団生活を体験させたかった」というのが約半数。それから「園の方針内容に魅力があった」というのが3番目に上がっています。

26ページをお願いします。26ページから27ページが幼稚園に通っている方に聞いている質問です。通い始めた年齢については3歳が約半数、4歳が約3割ということで、ほとんどこの年齢から幼稚園に入っています。幼稚園を選んだ理由も1番からやはり13番までとっていますが、一番高かったのが「園の方針内容に魅力があった」ですね。それから、6番目の「子供が行きたがった」ということ。2番目の「子供に教育やしつけを身につけさせたかった」というような順になっています。

28ページをお願いします。28ページから31ページまでが保育園や幼稚

園に通っていない方、要するに未就園の方についての質問ですが、なぜ通わせていないかという設問で、「幼稚園に入れたいのだけれども年齢に達していない」というのがやはり半数になります。それから、「自分で子供を育てたい」という方が15%、7件ほどいます。それからいまのところ先ほどから出ていました、6番目に「経済的な余裕がない」という方も6件なのですが、13%がいるという状況です。

30ページ、31ページをお願いします。今後いずれ通わせたいかという設問については、96%でほとんどの方が保育園か幼稚園に通わせたいというように思っていて、年齢的には「3歳、4歳から幼稚園に」という答えの方が多くなっています。

それから、32ページをお願いします。32ページの17番から20番、これについては全員の方にお聞きしているんですけども、17番については、子育てというか育児に関する考え方についての調査をしています。これも調査対象別に若干傾向が出ていますが、1、2、3、4、大きくわけて4つの設問で答えていますので、その設問順で説明します。保育園では「子供が小さい間は親が家庭で育てるべきである」という設問に対しては、「どちらとも言えない」というのが多いのですが、「余りそう思わない」、「全然そう思わない」という、設問に対して否定的な考え方は39.8%ですので、4割近くの方がそのように考えています。ちなみに同じ設問について、幼稚園には逆に「とてもそう思う」、「まあそう思う」という肯定的な答が6割を超えていますので、ちょっと傾向的に違うものがあるようだなと思っています。それから、未就園についても、「とてもそう思う」、「まあそう思う」という肯定的な答えをあわせて56.6%で、やはり幼稚園と未就園の方が答えの傾向は同じようになっていると思います。

それから、2番目の「女性が仕事を続けていく上で子供を保育園などに通わせるのは賛成である」、それから3番目の「これからの育児は家庭だけでなく地域社会全体で責任を持つべきである」、4番目の「子供は集団の中で育てるのがよい」というこの3問の設問については全対象とも同じような傾向が出でいて、「とてもそう思う」、「まあそう思う」という肯定的な答えがすべてのところで高くなっています。考え方としては保育園、幼稚園、未就園とも同じような傾向だなということが言えるかと思っています。

問18をお願いします。「子供を育てる上で、これまでに困ったり不安に思ったことがありますか」という、先ほど委員の方からいただいた説明と同じような設問がありますが、1番から14番まで細かい内容で設問を設定しております。保育園については、1番多いのは「しつけの仕方」、これは半数の方が答えています。次に「子供の性格」、そして「食べ物の好き

嫌いや食事の仕方」というような順番で不安に思ったりというようなことがあるということです。

それから、幼稚園については、1番多いのやはり「しつけの仕方」それから「友だちづき合い」というのがきています。そして、子供の生活というような順番になっています。

未就園についても、1番多いのが「しつけの仕方」、それからやはり「友だちづき合い」、そして3番目に「子供の性格」ということで、やはり全体的に多いのは今言った「しつけの仕方」ですとか、「友だちづき合い」、「子供の性格」、それから「食べ物の好き嫌いとか食事の仕方」というようなことに対しての割合が高くなっています。

また、幼稚園、未就園で、12番の「子供にお金がかかり過ぎる」の割合が29%、28.3%とかなり高くなっているというのはやはりここでも出ています。

それから問19をお願いします。これは「子供を育てるに当たって不安に思ったとき等にどのような対処をしているか」という設問ですが、保育園については「夫婦で相談する」というのが76%、4分の3以上になります。それから、「幼稚園や保育園の先生に相談する」、この場合には保育園の先生に相談するというのが7割を超えています。

次に「親や親族に相談する」65%という内容になっています。

幼稚園については、圧倒的に多いのが「夫婦で相談する」で83%、それから次に「近所の人や知人に相談するということ」でこれは74%になっています。3番目に「親や親族に相談する」59%という順になっています。

未就園についても、やはり幼稚園と同じような傾向がありまして、「夫婦で相談する」80%、それから「親や親族に相談する」76%、そして4番目の「近所の人や知人に相談する」57%というような答えが多くなっています。10番目の「だれにも相談できずに困っている」というのが、幼稚園で3件あるのですが、件数的には比較的少なかったかなと思っています。

問20、38ページをお願いします。これについては、「保育に関するサービスは次のようにありますが、利用したいサービスについてはどれですか」という設問です。1番から12番までサービス項目が出ていますが、保育園では1番多いのが「延長保育」それも6割を超えています。次に「病後児保育」40%ですね。それから「ファミリーサポートセンター」39%というのが3番目にきています。

幼稚園ではやはり「一時保育」が53%と、それから「延長保育」も51%、それと「子育て支援センター」が37%で3番目にきています。

未就園についても、「一時保育」を利用したいという方が80%を超えてい

まして、次に「子育て支援センター」「ファミリーサポートセンター」それから「延長保育」という順番になっています。

次に21ページをお願いします。「子育て支援についてあなたはどうお考えですか」ということですが、これは1番から5番までの設問を設けていまして、傾向として保育園については、3番目の「行政と民間はそれぞれの特徴を生かしながら行っていくべきだ」というのが48.6%で約半数。それから1番、2番「行政が責任を持つべきだ」。それから「責任を持ちながら民間の手を借りるべきだ」というようなものが同数程度になっています。幼稚園については、3番の「行政と民間のそれぞれの特徴を生かしながら行っていくべきだ」が66%で、次に「行政が責任を持ちながら民間の手を借りるべきだ」という答えになっています。

未就園についても幼稚園と同じような傾向ですが3番、2番が多くなっています。

42ページをお願いします。42ページ以降については子育てのに関する意見ですとか要望を書きいただいています。項目別に分けると812件を超える意見・要望等を書いていまして、これにまとめていますが、行政への要望、それから幼稚園・保育園の要望も含めましてかなりの件数が出ています。これについては代表的なものを載せています。それから件数も載せていますのでまた見ていただければと思います。

以上です。

委員長 後ろに出ていましたけど、子育て支援センターの紹介と関連で出ていましたこのアドバイザーという人がどういう方でいらっしゃるのかちょっとご説明をしていただきたいと思います。

事務局 子育て支援センターについては乳幼児を抱えるお母さん方もここに来る機会が少ないと思いますので、不安とか苦労とかそういうものを抱えている方が非常に多いのではないかと思います。いろいろ検討してきました。今年度の4月から開設いたしました。準備期間がやはりかかりますので、6月から本格的に稼働をさせて、福祉センターの中で実施をいたしました。これはまだ詳しい検証まで及んでいませんので、詳細の中身の報告はできませんが、利用者の数でいいますと6月の延べ人数で600人程度、これが7月になりますと約800人、8月になりますと1,000人を超えるというように非常に利用者が多いという実数は出てきています。これについてはより検証を深めまして、今後も充実を図っていきたいと考えています。

それから、子育てアドバイザーですが、子育てアドバイザーは特に国家試験とかそういう形のものではありませんけれども、保育の実地をよくされている方とか研修を受けている方とかで、鎌倉市は財団にこの運営を委託しまし

て、その中で実施をしていますけれども、藤沢市だとか、茅ヶ崎市などいろいろなところでやっている子育て支援の方たちと同様の職員を派遣していただきながら実施しています。特にアドバイザーと言っていますが、これは指導員と言っても、それについてはどちらでもいいかなと。ただ非常に実践を積んでいるということだけは明らかですし、どちらかというとカウンセリング的なことの要素がかなり強いかなと考えています。

委員長 その部分は次回、次々回以降の今度は施策の中身をまた事務局の方から情報提供していただきたいと思います。詳しくしていただきたいと思います。お約束が3時半です。3 - 4のボリュームがかなりありましたので、1分ぐらいしかないのですけれども、何かコメント等ご意見がありましたら伺いたいのですが。

問10のところを見ると、結局早めに保育ということを開始しておかないとニーズに応えられないということなんでしょうね。

委員 非常に基本的なことを伺うのですが、この質問の設定だとか設問項目についてはどこで検討されて行われたのですか。

事務局 保育園を所管しています子ども家庭福祉課と公立保育園の園長を中心に素案をつくりまして、あと民間の保育園の園長先生方のご協力をいただきながら、そして市内の幼稚園の園長先生にもご協力をいただきながら設問を設定しています。

委員 それで続けてもらいたいのですが、そのときにこの質問項目をつくるに当たっているいろいろなことを知りたい。知りたいことがあって聞かれたと思うのですが、背景、聞かれたと思うのですが、それについての分析、この結果をどういうふうに受けとめるかという分析については何かされているというものがありますか。まだそこまでいっていないのですか。

事務局 今回お出ししているのは、実数を載せているだけで若干説明するにあたるコメントを述べましたけれども、細かな分析はまだいたしていません。この数字を見ながら、働いている親御さんのいろいろな考え方の傾向を出してみるとかというようなことをこれからやっていきたいと思っています。

委員長 本来アカデミックにやりますと、多分調査仮説というのを立てて、そして統計的にも検証し、分析をするというようなことはあるのだらうと思います。この調査は、生の声を拾っているという解釈をした方がいいのかなとは思いますが。

さて、それではこの点について恐らく次回、次々回以降にもまたさかのぼって議論をすることになると思いますので、またお気づきの点は戻って発言を次回以降していただくとして、もう2時間半が経ちますので、最後に次回の確認をさせていただいて、そして次々回の日程調整をさせていただく作業を

して終わりたいというふうに思っておりますが、特にこの点だけはちょっと確認をしておかないということがありますか。

よろしいでしょうか。それでは次回の日程の確認ですが、12月16日（土）の9時半、午前中ということで、前回お約束をいただいておりますので確認をさせていただきます。

以降日程調整。

委員長 次々回、第5回は2月3日（土）午前中9時半からということで予定をとらせていただきます。

それでは今日の予定をいたしました審議はこれで終わりたいと思います。お約束の3時半ということになりました。どうもありがとうございました。

それで毎回なのですが、次々回を決定していないと皆さんお忙しいのでということで次々回なのですが、先ほど申しましたように後年度内2回というふうに考えておりますので1、2、3月の3カ月で2回というふうに考えたいと思うのですが、ここは教育関係者、保育園、幼稚園というところは年度末はすごく忙しいメンバーがそろっているのではなかなか難しいことなのですが、先に石井委員、藤原委員、入学試験、あるいは卒業式、富田委員も山田委員の方ですと、卒園式等の日程がおありになりますので、平日の夜といっても今まで何回かお諮りしていてもできないのですよね。ここの土曜日はもう入学試験でだめだとか、卒園式でだめだとか、卒業式でだめだという土曜日を出しておいていただけますか。まず、1月、2月当たりでいかがですか。一応民間はまだねまだ松の内ですから。

委員 1月27日がちょっとだめなんですよ。

委員長 27日はだめですか。

委員 はい。

委員 20日が今年からうちの大学はセンター試験に参加しますので。

委員長 センター試験、高校は付き添いかなんかない……。

委員 うち余り関係ないのですけどね。

委員 私の方は1月13日は出張でおりません。

委員 私はこの日が附属高校の試験なので…。ちょっと微妙でして1月、2月というのは私ども私立の学校ですから、この間の状況次第で変動してくるのです。そうするとですね。とりあえず1月で13日が決定的にだめというふうになるので、27日は竹委員がだめというふうにおっしゃっていて20日が…。

委員 はい。27日の午前中がカウンセリングの予約が入っておりますので。

委員長 藤原委員が20日がセンター試験でだめで、ということはですね、1月の土曜日の可能性はなくなりました。そうすると、2月3日(土)、問題がなければここで決めさせていただきます。事務局の方は大丈夫ですか、3日、石井委員は変動がありましたら、ちょっとご勘弁いただくということ。

委員 3日は今のところ大丈夫です。